

腹膜偽粘液腫における腫瘍組織を用いた抗がん剤感受性試験での既存治療薬の適応拡大による治療法の開発研究

●研究の対象と場所：

国立がん研究センター中央病院において診療を受けた腹膜偽粘液腫の患者さんを対象とします。研究には（1）手術で切除した病変部分の組織の残りなどの診療後の残余試料と、（2）病理診断や治療の内容などの病気に関する臨床情報、を使用します。研究を行う場所は、国立がん研究センター研究所および共同研究を実施する東京大学医科学研究所、国立国際医療研究センター病院です。

●研究の概要：

腹膜偽粘液腫の新しい治療法の開発では、正常あるいはがんの組織中の細胞が抗がん剤にどのように反応するのか、タンパク質や遺伝子は抗がん剤によってどのように変化するのかを研究します。そのような研究を行うためには生きて細胞が必要なので、腫瘍細胞をシャーレ中で増殖させたり（培養細胞株）、腫瘍組織や腫瘍細胞を実験動物に移植したり（ゼノグラフト株）します。

本研究では、診療の過程で得られるがん組織や腹水中の腫瘍細胞を用いて体外で維持可能な細胞株や移植腫瘍を作製し、抗がん剤の感受性試験などを行います。

●研究の目的・意義：

本研究の目的は、腹膜偽粘液腫の新しい治療法を開発することです。そのために必要なモデル系（細胞株やゼノグラフト株）を作製します。そして、作製した細胞株やゼノグラフト株を用いて抗がん剤の感受性試験などを行います。体外で培養した腫瘍組織も使用して抗がん剤の感受性試験を行います。有効な抗がん剤を見つけるためには、がんのモデル系である腫瘍細胞株やゼノグラフト株を用いた実験が必要なのですが、そのようなモデル系は一般には入手する

ことが困難です。そこで本研究では、自分たちでモデル系を作製し、作製したモデル系を用いて研究を行います。

●方法：

診療の過程で得られた腫瘍組織や腹水中に含まれている細胞塊を細かく分割・分散させ、細胞を増殖しやすくします。腫瘍細胞をシャーレなど培養の器具の中で増殖させたり、動物の体内に埋め込んで増殖させます。細胞が順調に増殖したら凍結保存します。凍結保存した細胞を解凍し、シャーレの中で増殖させたり動物に移植するなどした細胞を用いて、抗がん剤に対する感受性を調べます。あるいは、腫瘍組織を体外で維持し、抗がん剤の感受性を調べます。また、抗がん剤への感受性の分子背景を調べるために、新型高速塩基配列解析装置（次世代シーケンサー）を用いて遺伝子・ゲノムの構造や機能の変化を解析し、質量分析計を用いてタンパク質の量的・質的異常を解析します。

●研究に用いる試料・情報の種類：

研究に用いる試料は、診療の過程で得られた腹膜偽粘液腫の腫瘍組織および非がん部組織、血清又は血漿や腹水等になります。また用いる情報の種類はカルテ番号・イニシャル・病理検体番号です。なお氏名・住所は用いません。

●個人情報保護に関する配慮：

個人情報を保護する担当者が責任を持って臨床検体を匿名化した上で、診療に関する情報を研究に使用します。本研究全体を通して、患者さんの個人情報がセンター外に出ることがないように、細心の注意を払います。

●照会先および本研究への利用を拒否する場合の連絡先：

研究責任者：近藤 格

〒104-0045 東京都中央区築地5-1-1

国立研究開発法人国立がん研究センター研究所

希少がん研究分野 分野長

近藤 格

TEL 03-3542-2511（代表） FAX 03-3547-5298